平成30年度課外プロジェクト実施報告書

（課外プロジェクト名）

学祭イベントプロジェクト～兵教から笑顔を発信～

1．組織

代表者　小林　季寛

正木　汐音

２．プロジェクトの概要

嬉望祭で「ダメなことをしよう！」をテーマにイベントを行った。「こどもキングダム」と名付け，子どもたちのための王国が兵庫教育大学に開国した，という設定で，子どもの居場所づくりをすることと，普段できないことが出来る空間づくりを目的として４つのブースを展開した。このプロジェクトを発案するにあたり，教育大学でのイベントに子どもたちを招くことで，学生も参加しやすくなり，将来教職に就くことを志す人が多い兵庫教育大学生が，子どもと関わる機会を増やすことが出来るのではないか，普段私たちがボランティア活動に参加して感じている子どもと関わる楽しさを他の学生にも発信できるのではないかと考えた。そして，楽しさを感じて学生が笑顔になれば，子どもたちにも笑顔が広がっていくのではないだろうかと考え，子どもたちだけでなく，関わる人すべてが笑顔になれることを目的とした。また，地域に開かれた大学として，もっと地域の人を招くことのできる学園祭になれば，と思い，地域の子どもたちが楽しむことのできるものを，と思いプロジェクトの発案に至った。

３．プロジェクトの計画及び活動詳細

〇目標

・子ども（小学生をメインターゲットとする）300 人の集客を目指す。

・子どもたちを楽しませるだけでなく，運営する大学生も笑顔になることを目指す。

・いつもはできないことが出来る空間づくりを目指す。

〇日程

６月	末頃・・・幹部話し合い(目標決め)
７月	上旬・・・大学生リーダー募集開始 幹部話し合い(ブース、活動日程決め) 中旬・・・事務関係書類準備（課外活動プロジェクト申込書等） 末頃・・・幹部話し合い（企画書作成）
８月	2 日・・・第一回全体会実施(企画説明、顔合わせ) 中旬・・・幹部話し合い（ブース案検討）

９月	上旬・・・幹部話し合い（ブース確定、必要物まとめ） 11 日・・・第二回全体会実施予定（準備について説明） 中旬・・・制作物準備開始
10 月	全体・・・準備
11 月	10 日・・・先日準備、シミュレーション 11 日・・・企画当日 中旬・・・大学生リーダー振り返り（反省点、成果、来年に向けて） 末頃・・・幹部話し合い(活動の成果について、事務書類まとめ)
２月	中旬・・・成果発表会予定（ネットワーク交流会にて）

〇企画テーマ
「ダメな事をしよう!!!」
普段だったら怒られてしまう…止められてしまう…でも，楽しい…！そんなことがたくさんできる子どもの王国,「こどもキングダム」が学祭の陽気に誘われて現れた!!子どものココロがあれば誰でも入国できるこの国で，思いっきり楽しんじゃおう！
〇流れ
子どもたちは受付で入国審査を受け，パスポートをもらう。
王国内の街（ブース）を探検する。街は４つ設ける。
・らくがきタウン…落書きをすることができる。
・ちらかしタウン…時間ごとに，障子に穴を開ける，トイレットペーパーを散らかす，ティッシュを散らかす，枕・クッションを投げる・綿を出す，紙を散らかすという５つのことができる。
・ぽいぽいタウン…干してある洗濯物を引っ張ったり，服を散らかすことができる。
・ころころタウン…台車やローラー椅子に乗って走り回ることができる。
４つの街を回ったら受付に帰ってくる。
受付でカードを渡し,「こどもキングダム」がまた兵教に帰ってこられるように，今の気持ちや目標・やりたいことをカードに書いてもらうことで子どものココロを分けてもらう。集めたココロで「ココロのタワー」を作り,再び「こどもキングダム」を開国するための目印にする。

〇参加費
・来場者に受付で５０円を支払ってもらう。このお金の１/３は豪雨被害を受けた岡山県に課外プロジェクト「災害支援　Convey a Smile」を通して寄付する。残りの２/３は来年度の活動への繰越金とする。

４．得られた成果
〇集客人数　111 人，参加学生数　24 人
〇こどもキングダム来場費　5,555 円
→1/3（＋端数）2,034 円を「災害支援　Convey a Smile」へ募金のため引き渡した。計画よりも費用が掛かってしまったため，繰越金はなし。

〇活動の様子

・らくがきタウン

共通講義棟 206 教室

↓イベント終了後

・ちらかしタウン

共通講義棟 305 教室

共通講義棟 307 教室

↓イベント中の子どもの様子（共通講義棟 305 教室）

↓イベント終了後（共通講義棟 307 教室）

・ぽいぽいタウン

共通講義棟 302 教室

↓イベント中の子どもの様子

↓イベント中に見られた子どもの発想力から生まれた想定外の遊び方

子どもの集客人数は目標人数には満たなかったが，子どもたち自身で部屋での遊び方を考えて生き生きと活動する姿から，子どもたちの発想の豊かさを学んだ。場所を用意しただけで子どもたちは楽しんでくれるのだろうか，と不安に思っていたが，環境を整え空間を子どもに与えるだけで，私たちの想像をはるかに超えて遊びを見つけていく子どもたちの可能性を信じ，子どもの姿を引きだすことのできる関わり方をこれから模索し，学び続けていきたいと思った。参加した多くの学生からも同じような声がイベント終了後に多く挙がっており，子どもと一緒にとても楽しく過ごし，気づいたらイベントが終了していた。という声も多く聞いた。子どもたちの笑顔だけでなく，参加した学生の笑顔も多くみられて，目標を達成できたように思う。

また，「ダメなことをしよう！」というテーマで活動するにあたって，保護者の方々はどのようにみられるのだろうか，という不安もあったが，「これは家ではできないわ。確かにダメなことやわ。」とつぶやきながら楽しそうに遊ぶ子どもたちを笑顔で見守る保護者の方々の姿が見られ，安心した。「こんなことを兵庫教育大学でやっているなんて知らなかったです。」と帰り際に話してくださる保護者の方も見受けられ，このイベントをきっかけに地域と大学をつなぐことに少しでも貢献できたのではないかと考える。小さな事かもしれないが，学生にエネルギーがあることが伝われば，地域との連携が進み，学生の地域貢献につながるのではないだろうか。

そして今回近隣地域へ向けても広報を行うにあたり，他の 2 つの課外プロジェクトと共同で広報を行った。院生が行っている学園祭で実施するプロジェクトだ。学園祭は学部生中心で行われているため，学園祭についての情報提供や実行委員との連絡を私たちが，広報のやり方やインターネットの活用についてを院生方が多く担うことで円滑に進めることが出来た。学内で院生と学部生の交流が希薄であると常々思っている。交流を深めることは双方に利益のあることであるし，課外活動プロジェクトのような学生主体の活動をより充実させるためにも良いと思った。学内での輪が広がり，その輪がどんどん学外へも続いて人がつながっていくきっかけになったことがこの活動全体を通じて一番大きな成果ではないだろうか。協力・賛同いただいた皆様，ありがとうございました。

5. 費用の内訳

（円）

消耗品	旅費	謝金	その他	合計
31,000				31,000